

科目名	英語教育方法論特講	担当者	オオタ 太田 ハルミ 晴美	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義は英語教授法に関連する理論とその背景について理解を深める。さらに、グローバル化時代に寄り添い、日本人学習者に適した英語教授法の実践的能力の育成を図ることを目的とする。		
到達目標	英語教授法の理論は英語の運用力の獲得と教授法を学問的に考察するが、今、グローバル化による多文化化、多言語化がこの英語教育理論のパラダイムに大きな変化を及ぼしつつある。本講義では英語が取り巻く環境の変化を理解し、今後はどのような理念に基づき、どのような英語を日本人学習者に教えるのかを考察し、知見を広めてもらう。さらに、日本の教育現場に置いて「共通語としての英語」の教授法の具体性のある実践的能力の養成も試みる。		
学修方法	前期後期とも、指定されたテキストと参考図書も合わせて読み、レポートを提出する。最終稿までに、担当教員に指導を受け、加筆、修正、編集を繰り返し仕上げる。		
スケジュール	<p>【前期】</p> <p>レポート課題1 締め切り：6月末</p> <p>レポート課題2 締め切り：9月課題提出締切日</p> <p>【後期】</p> <p>レポート課題1 締め切り：11月末</p> <p>レポート課題2 締め切り：1月課題提出締切日</p> <p>締め切りに変更が必要な場合は担当教員まで連絡する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの構成、論旨の展開
	平常評価	20%	レポート添削への対応
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは担当教員のフィードバックのよる書き直しを繰り返しながら（特に英文の場合）最終稿が締め切りに間に合うよう、計画的に進めること。</li> <li>・日本の教育現場で英語を（将来的に）教える受講者には、英文レポートの作成に挑戦してほしい。</li> </ul> <p>*後期に使用する以下のテキストはAmazon Kindle（タブレット・PC）の購入をお勧めします。ペーパーバックご希望の受講者は前期中に手配をお願いします。アマゾンで【一時的在庫切れ・入荷未定】と表示された場合は<u>担当者にメールでご相談ください。</u></p> <p>Aya Matsuda (Ed.)  <i>Principles and Practices of Teaching English as an International Language</i>      Multilingual Matters (2012)</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Sandra Lee McKay 教材名： <i>Teaching English as an International Language: Rethinking Goals and Approaches</i> Oxford University Press (2002) ISBN:978-0-19-437364-7 4,290 円+税 本書は英語を取り巻く環境が変化中、これからの教育現場で「国際共通語としての英語」(EIL)とどう関わっていくかをわかりやすくまとめた入門書である。英語が国際共通語になるまでの歴史的、言語的背景の記述から始まり、バイリンガル教師として立ち位置、そして英語の国際的スタンダードをどう定義するか、その問題点について掘り下げて論じている。後半は国際共通語と文化の扱い方、そして具体的な指導法について提案する。
参考図書	① Jennifer Jenkins <i>Global Englishes: A Resource Book for Students</i> Routledge (2014) ISBN:978-0-415-46612-7 ② 本名信行『国際言語としての英語』 (富山房インターナショナル, 2013年) ISBN:978-4-905194-56-9 ③ 英語教育と文化—異文化コミュニケーション能力の養成(英語教育学大系第13巻) (大修館書店, 2010年) ISBN: 978-4-469-14233-4
履修上のポイント	グローバル化の中、英語の指導者はこれまでとは異なる英語教授法のパラダイムが必要であることを認識し、そして学習者には少なくともその「気づき」を喚起させなくてはならない。個々の立場からここに書かれている内容をどう教育現場で適用できるかを念頭に置いて読み進めてほしい。内容等について必要な場合には担当教員と相談すること。
レポート課題 1	Chapter 1 から Chapter 3 までを読み、EIL の変遷と現状を踏まえたうえで、世界で英語が多様化し、様々な英語変種が生まれる中で、これからの「英語のスタンダード」、「ネイティブ・スピーカー」をどう定義するかも含めて考察し、3,000 字程度で論じる。英文レポート (1,000 words 程度) の提出も可。 <b>留意点:</b> 参考図書や他の文献も参考に、それぞれが関わる教授法や研究との関連性から論じること。
レポート課題 2	Chapter 4 から Conclusion までを読み、各国の文化的特徴が反映された新しい英語の変種をどう捉えるか、文化を指導するなかでどのように EIL を取り扱うのか、日本の教育現場にも照らし合わせて考察し、3,000 字程度で論じる。英文レポート (1,000 words 程度) の提出も可。 <b>留意点:</b> 参考図書や他の文献も参考に、それぞれが関わる教授法や研究との関連性から論じること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Aya Matsuda (Ed.) 教材名： <i>Principles and Practices of Teaching English as an International Language</i> <i>Multilingual Matters</i> (2012) ISBN:978-1-84769-702-8 4,550 円+税 (\$39.95) 本書は Part 1 の理論編と Part 2 の実践編から成り立ち、国際色豊かな 16 名の研究者が国際共通語としての英語の理念と、それを実際の教育現場でどう実践するかということを綴ったテキストである。日本の教育現場の報告もいくつか含まれており、EIL の具体的な活用例の記述がある。各章末には細やかな参考文献も含まれており、今後の研究の参考資料として活用されたい。
参考図書	① Edited by Lubna Alsagoff, Sandra L. McKay, Guangwei Hu, W. Renandya <i>Principles and Practices of Teaching English as an International Language</i> Routledge (2012) ISBN:978-0-415-89167-7 ② 英語授業デザイン—学習空間づくりの教授法と実践 (英語教育学大系第 11 巻) (大修館書店, 2010年) ISBN: 978-4-469-14241-7
履修上のポイント	テキストにある EIL についての知見に基づき日本の教育現場の指導案を具体的に構築できるようにする。内容等について必要な場合には担当教員と相談すること。
レポート課題 1	Part 1 の理論編を読み、興味のあるテーマを選び、参考図書、テキスト章末の参考文献から数編を選び、3,000 字程度で考察し論じる。英文レポート (1,000 words 程度) の提出も可。 <b>留意点:</b> テキスト、及び参考図書や文献からの引用を含めること。
レポート課題 2	Part 2 の実践編を参考にして、「国際共通語としての英語」を日本人学習者に喚起させるための独自の指導例を考案して、そのレッスンプランを提出する。そのレッスンプランを作成した理論的根拠も合わせて論じる。英文レポートの提出も可。 <b>留意点:</b> 対象とする日本人学習者、レベル等は各自で設定して構わない。